

令和4年度いちごナミハダニの薬剤感受性検定結果

長崎県病害虫防除所

1. 試験目的

いちごの重要害虫であるナミハダニについては、近年多発傾向にある。本虫は一部の薬剤に対する感受性が低下しており、防除対策を立てる上ではその動向に注意する必要がある。

そこで、各種薬剤に対する感受性検定を行い、薬剤抵抗性発達防止への取り組みの参考とする。

2. 検定概要

1) 採集地区および実施日等

市町名	地区		採集日	接種日	処理日	判定日
雲仙市	瑞穂	ベンチ	4月19日	4月19日	4月21日	4月28日
大村市	松原	地床	5月24日	5月24日	5月27日	6月3日
諫早市	飯盛	ベンチ	5月20日	6月13日	6月15日	6月22日
長崎市	早坂	ベンチ	6月16日	7月6日	7月8日	7月15日
長崎市	早坂			7月19日	7月21日	7月28日

※虫数が不足した地区は飼育して虫数を確保した。

長崎市については2回に分けて7月8日に4薬剤、7月21日に3薬剤を用いて処理した。

2) 供試薬剤および供試希釈倍数

薬剤名	有効薬剤	成分量 (%)	I R A C	登録希 釈倍数	供試希釈倍数	
					常用濃度	3倍希釈濃度
ニッソラン水和剤	ヘキシチアゾクス	10	10A	2000~3000	2000	6000
カネマイトフロアブル	アセキノシル	15	20B	1000~1500	1000	3000
モベントフロアブル	スピロテトラマト	22.4	23	500	500	1500
アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸	1	6	2000	2000	6000
アグリメック	アバメクチン安息香酸	1.8	6	500~1000	500・1000 ※	1500・3000
グレーシア乳剤	フルキサメタミド	10	30	2000	2000	6000
ダニオーテフロアブル	アシノナピル	20	33	2000	2000	6000

3) 検定方法 リーフディッピング法

インゲン苗の初生葉2×4cmの葉片を切り出し、雌成虫を10～15頭接種し、2日間産卵させた後、雌成虫を取り除き、卵数を計数した。直ちに葉片ごと卵を所定濃度の薬液（展着剤添加）に約10秒間浸漬した。薬剤処理7日後に生存虫数と死亡虫数（ふ化後死亡幼虫および未ふ化卵）を調査し、次式により補正死虫率を算出した。

$$\text{補正死虫率} = \{ (\text{無処理区の生存率} - \text{処理区の生存率}) / \text{無処理区の生存率} \} \times 100$$

3. 結果

1) ニッソラン水和剤

すべての地区で常用濃度、3倍希釈濃度ともに補正死虫率は低かった。

2) カネマイトフロアブル

大村市（松原）、諫早市（飯盛）の常用濃度では補正死虫率は90%以上であったが、他地区では40%以下であった。3倍希釈濃度ではすべての地区で補正死虫率は低かった。

3) モベントフロアブル

大村市（松原）の補正死虫率は90%以上で高かったが、他地区では常用濃度、3倍希釈濃度ともに補正死虫率は80%以下であった。

4) アファーム乳剤

雲仙市（瑞穂）の補正死虫率は90%以上であったが、他地区では80%以下であった。

5) アグリメック

長崎市（早坂）では補正死虫率は高かったが、他地区では常用濃度、3倍希釈濃度とも補正死虫率は65～86%と低かった。

6) グレーシア乳剤

雲仙市（瑞穂）の常用濃度と3倍希釈濃度は80%以下であったが、他地区では95%以上で高かった。

7) ダニオーテフロアブル

すべての地区で常用濃度、3倍希釈濃度とも補正死虫率は高かった。

表 令和4年度いちごナミハダニ薬剤感受性検定結果(補正死虫率) (%)

		ニッソラン 水和剤	カネマイト フロアブル	モベント フロアブル	アファーム 乳剤	アグリメック ※	グレーシア 乳剤	ダニオーテ フロアブル
長崎市 (早坂)	常用	0.0	37.0	78.4	80.1	100	100	100
	3倍	25.1	24.2	70.0	51.8	100	99.4	100
大村市 (松原)	常用	64.7	100	93.7	66.5	84.5	100	100
	3倍	45.8	87.2	92.6	76.7	69.9	96.1	100
諫早市 (飯盛)	常用	25.2	90.7	50.7	41.5	65.2	100	100
	3倍	0.0	82.6	43.5	71.9	71.3	100	100
雲仙市 (瑞穂) 10日後	常用	0.0	36.2	69.5	91.1	85.6	70.6	100
	3倍	0.0	0.0	63.3	97.4	85.9	75.9	100

補正死虫率90%以下はセルを塗りつぶした。

補正死虫率が0以下になったセルは「0.0」と表示した。

表中の数値はハウス単位で採取したハダニの結果であり、各地域全体の感受性を反映したものではない。

※アグリメックの常用濃度は長崎、諫早は500倍、大村、瑞穂は1000倍で、3倍希釈濃度は1500倍、3000倍でそれぞれ実施した。